ヒグマ危機クライシス

遭遇リスク 常に頭に

大きな音鳴らし存在感

アウトドアでは山菜採りのシーズンを迎え、来月1日には上川や胆振管内などでヤマベ釣りが解禁される。自然の中に入る機会が増えるが、ヒグマと遭遇する危険性を常に忘れてはいけない。ヒグマは繁殖期に入って行動が活発化しており、今月14日には上川管内幌加内町の朱鞠内湖湖岸で釣り人が襲われ死亡する事故が起きた。一方、市街地での目撃も相次ぎ、室蘭市内では住宅街を駆け抜けるクマの姿が撮影されるなど、市街地や畑など人里にも脅威が広がっている。遭遇しないために何ができるか、遭遇したらどうするか、専門家に基本的な知識を教えてもらった。

佐藤佑さん

「ツアーガイド中は、年に何度かクマを見ます。笛や鈴を使ってクマが接近しないように対策しているので、導く客を確認することがほとんどです」。札幌を拠点に山岳ガイド歴16年の経験がある佐藤佑さん（40）＝北海道山岳ガイド協会（札幌）事務局次長＝は、山中でのヒグマ対策の重要性を訴える。

出没情報を確認

遭遇による、ヒグマによる被害の5割は、山菜やキノコ採りの最中に発生している。まずは入山前にクマの出没状況を確認することが大切だ。出没を知らせる看板や電柵の存在自体を凝らしたい。

遭遇しないための対策は、まず鈴だ。クマにこちらの存在を気付かせるためで、佐藤さんは「笛や鈴などで自分の周囲に『音のバリアー』を広げながら移動するようにしてほしい」と力を込める。

佐藤さんによると、音を出すものは笛や鈴、爆竹、ラジオが一般的だ。笛は頻繁に吹くことで、ばったりと遭遇することを避けられる。なるべく大きな音が鳴るものを使う。

鈴は身に着けておくと良いが、ベルの部分が衣服に密着すると鳴らなくなるので、フックに引っかけると良い。

爆竹は瞬間的に切り一帯にこう音を響かせるが、木々がうっそうと茂る場所では音がこもりにくい。ラジオの音は風の音などにまぎれやすい。ササやぶで鳴らすと、逆にクマが出ずガサガサという音に気付かないこともあるという。

話し声も効果があり、「複数で話をしながら行動することも大切」（佐藤さん）という。

走って逃げない

では、遭ったらどうするか。導く客を発見した場合は、クマがこちらに気付いていないなら、静かにその場を離れる。大声でクマを刺激してはいけない。

作業や遊びに夢中になり、近づいて初めて気付く場合もある。驚いても決して走ってはいけない。クマの顔をじっと見つめ、背中を見せずにゆっくり後退して立ち去ることが重要だ。

クマは逃げるものを追いかける習性があり、絶対に走らないことを肝に銘じたい。

逃げられないほど接近した場合の対策として、撃退スプレーの使用が挙げられる。スプレー上部にある誤射防止用のピンを外し、本体をしっかり握り、クマの目、鼻、口をめがけて噴射する。スプレーが届く範囲は5～10㍍。刺激が強い唐辛子成分のカプサイシンが霧状に拡散してクマを遠ざける。噴射できる時間は容量により5～10秒。落ち着いた対応が求められる。

スプレーはいざというときにすぐ使えるよう、専用のホルダーに入れて常に腰や胸などに装着する。カバンの中にしまっていては、即座に対応できない。

被害に遭ったら、警察電話や無線で消防、警察に連絡を。ガイドが同行している場合は、その場で応急処置をしてもらう。

クマが目の前にいる状況下で、スプレーを冷静、効果的に使うことは非常に難しいという。佐藤さんは「スプレーを使う場面は本当に限られるが、山へ入る時は忘れずに携行してほしい」と求めている。

（米川雅彦）

クマから身を守るために

遭遇しないために（人の存在を知らせる）

- 笛：見通しの悪い道などで、ばったり遭遇することを避けるために頻繁に吹く
- 鈴：体やカバンに着けて常に鳴るようにする
- 爆竹：山中に爆発音を響かせて遠ざける
- ラジオ：山菜採りなどで鳴らし続けて接近を防ぐ

遭遇したら（行動「離れる」）

- 遠くにいたら：こちらに気付いていないなら、静かに立ち去る
- 近くにいたら：クマを見つめながら焦らず、ゆっくり後退
  ※逃げるものを追う習性があるため、背中を見せて走らないこと

撃退（追い払う）

撃退スプレー　射程距離 5～10㍍　噴射時間 5～10秒　価格 1万～1万5千円　有効期限 3～5年

使い方
①誤射防止用のピンを外す
②本体をしっかり握る
③クマの顔をめがけて全部噴射する
※すぐ使えるように腰などに着けておく